

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2016年12月22日

第4号

教育指導課教育課程係

「考える道徳」を考える ～道徳における見方・考え方～

■ 仙台市立六郷小学校（研修会） 講師：黒上 晴夫 氏（関西大学教授）

12月5日（月）、仙台市立六郷小学校（菅原 弘一 校長先生）を会場に、研修会が行われました。当日は、関西大学の黒上^{くろかみ} 晴夫^{はるお} 教授が講師として来校され、『考える道徳』を考える』をテーマに演習を行いました。黒上先生からは、道徳における見方・考え方を身に付けさせるに当たり、多面的・多角的に考え、主体的に実行する子どもの育成を目指すことの大切さについて、次のような話がありました。

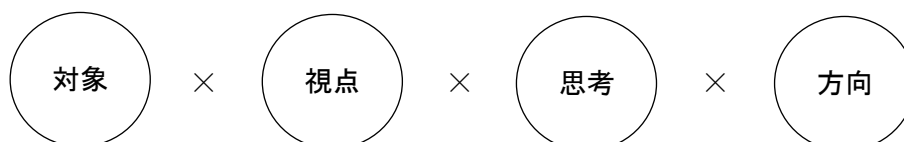
○多面的・多角的に考える ⇒ 子ども一人一人が、適切な行為を主体的に選択し、行動すること。

価値判断の主体は子ども



○道徳的価値（道徳の中核）⇒ 自分と関係付けながら広い視野で考えること。

【道徳における見方・考え方】 様々な事象を道徳的諸価値をもとに自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、自己の人間としての生き方について考えること。



研修会では、多様な指導方法の一つとして、思考ルーチンにおける「綱引き」の演習を行いました。この綱引きは、机の真ん中に線を引き、矛盾のある題材について、対立する立場を線の両はしに置き、いろいろな視点や立場から検討するというものです。グループ内で自分だったらどのように行動するかについて話し合い、一人一人が付せんに自分だったらどのように行動するかという考えを書き、両はしに置いた立場のどちらに近いかを判断し、付せんを貼っていきました。次に、グループとしての立場や話し合いの経緯について、全体で共有しました。演習をとおして、一つの事象であっても、多様な見方・考え方があることに、改めて気付かされました。

研修会には、六郷小学校のほか、近隣小・中学校の先生方も参加され、充実した研修が行われました。



「綱引き」の演習の様子

児童生徒の多様な見方・考え方の育成を目指して

■ 仙台市立広瀬小学校（授業研究） 講師：鹿毛 雅治 氏（慶應義塾大学教授）

12月13日（火）、仙台市立広瀬小学校（真壁 淳一 校長先生）を会場として授業研究会が行われました。当日は、慶應義塾大学の鹿毛 雅治 教授が講師として来校され、授業研究に対する指導助言と講話をいただきました。

まず、5校時目に6年2組（村上 聡 先生）で総合的な学習の時間の授業公開がありました。「つくって生かそう！ 仙台味噌の底力」の単元の中で、本時では、自分たちが作った“仙台味噌”を使った商品を販売するためには、どのようにすればよいかについて意見を出し合いました。子どもたちからは、これまで学習したことや友達の考えなどを参考にしながら、いろいろな視点から意見が出されました。



公開授業の様子

次に、授業検討会が、エビデンスベース型のワークショップ型検討会で行われました。この検討会は、子どもたちの様子を付せん紙に書くとともに、写真でも記録し、文字と画像を併用しながら授業を振り返るというものです。検討会では、子どもたちが発した言葉や授業者の発問などについて、具体的な場面から、成果や改善点等が話し合われました。その後、全体で視点を一つに絞り、さらにグループでその改善策を話し合いました。



授業検討会の様子

最後に、各グループで話し合われたことの発表とグループで選んだベストショットの写真1枚が提示されました。

指導助言いただいた鹿毛先生からは、次のような話がありました。

○ 子どもたちが考えていることに沿って、事象や課題を考えることで、子どもたちの「深い学び」が創出していく。

※ 教師のみが意図していることを一方的に子どもに問い、さらに、その根拠を問うたとしても、子どもからすぐに言葉は出て来ない。

○ 深い学びとは…

「Qマーク（問い）」と「!マーク（気づき）」の間で考えること。

- ・ 子どもの問いでなければならない。
- ・ 問いと気づきの間に対話的な学びの重要性がある。

「問い」 ⇒ 「気づき」 ⇒ 「表す（表現）」 ここを活発にすることが大切である。

- ・ この一連の流れが、深い学びへとつながっていく。子どもの思考と表現を活発化できるように教師は関わる。

「単元づくり」が重要。1単位時間だけでは深い学びについての結論は出にくい。

研修会には、広瀬小学校のほか、市内小中学校の先生方も参加されました。授業検討会では、提供いただきました授業をもとに活発な話し合いが行われました。また、鹿毛先生からは、「深い学び」について具体的なお話をうかがうことができ、充実した研修の時間を持つことができました。